

令和3年度第12回 感染症発生動向調査部会

令和4年3月16日

月番：大西 秀典（感染症全般）、大野 元（STI）

1 前月の感染症発生動向について（2022年第5週～8週・2月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は19例で、2019年の同期累計報告数52例、前年の同期累計報告数42例、本年の累計報告数が36例であり岐阜県下においては発生が減少傾向である。従来通り基本的には高齢者が多いが、30歳台、40歳台の発生も1例ずつ報告されている。
- ・ 三類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 四類感染症については、A型肝炎が1例報告されている。
- ・ 五類感染症(性感染症以外)については、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症が1例、侵襲性肺炎球菌感染症が1例(85-90歳)、水痘(入院例に限る)が1例、破傷風が1例報告されたのみである。
- ・ 新型インフルエンザ等感染症として、新型コロナウイルス感染症が今月の報告数は27,417例となり感染拡大がみられている。

<定点把握対象疾患>

- ・ インフルエンザは県内報告数が7例と少なく、前年同期比78.0%、前々年同期比0.3%と新型コロナウイルス感染拡大後に発生数が激減していることがわかる。
- ・ RSウイルス感染症は県全体での発生数は40例、県全体の定点あたり患者報告数が0.8、特に岐阜地域では1.4となり、前月比446.6%と流行がみられはじめている。
- ・ 咽頭結膜熱は35例の発生があるが、前月比74.8%と減少傾向である。
- ・ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は51例の発生があるが、前月比63.0%と減少傾向である。
- ・ 感染性胃腸炎は657例の発生があり、前月比89.0%とやや減少傾向の状況である。前々年同期比90.4%、前年同期比415.2%と昨年よりはかなり発生が多くなっており、例年なみに近づいている。
- ・ 前年同期にはほとんど流行のみられなかった手足口病は今月34例みられ、前月比53.2%で減少傾向である。
- ・ ヘルパンギーナの発生は1例と少なく、伝染性紅斑の発生はほぼゼロの状況が続いている。
- ・ 突発性発疹は25例の発生があり、前月比47.4%、前年同期比48.3%、前々年同期比57.1%で、発生が減少している。
- ・ 基幹定点疾患を含め、その他目立った調査対象感染症の流行はみられていない。

2 検討すべき課題

- ・ RSウイルスの再流行がみられているが、シナジスによる予防の時期について提言できるかどうか。

<事務局から>

- ・ ダニ媒介感染症に関する情報発信について

3 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)の小児感染例の中で、クループ症候群を発症することがあり、急激に重篤な上気道狭窄に進行し、死亡する症例が発生しているので注意喚起が必要です (http://www.jibika.or.jp/members/covid19/covid19_220304.pdf)。

4 その他（感染症対策推進課から）

- ・ 風しんの追加的対策に係る今後の対応について（協力依頼）
- ・ ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る研修会の開催について
- ・ 全国の鳥インフルエンザ発生状況
- ・ 県内新型コロナウイルス感染症発生状況

<検討結果>